

概要

JR北海道日高線は、苫小牧～鷗川間 4駅(うち有人駅:苫小牧駅、無人駅:勇払駅、浜厚真駅、鷗川駅)、30.5kmの路線で、苫小牧市・厚真町・むかわ町の1市2町にわたる路線であり、東胆振1市4町(苫小牧市、白老町、厚真町、安平町、むかわ町)、北海道、JR北海道が、「アクションプラン実行委員会」を設置し、利用促進やコスト削減等に取り組んできた。

令和5年度の総括的検証を行うにあたり、公共交通の利用実態・意向調査や公共交通の利用拡大に向けたバス連携実証事業を「JR北海道の維持困難線区に関する東胆振首長懇談会」として、再構築調査事業に取り組んだ。

○JR北海道日高線の輸送密度及び収支(令和4年度)

- ・輸送密度 398人/日
- ・営業損益 △364百万円
- ・営業係数 1,049円

○JR北海道日高線の課題

- ・利用者の大幅な減少による収支の悪化(営業損益△364百万円)
- ・通学定期利用が主体で、一般利用者が極端に少ない状況
- ・列車本数上下17本と運転本数が少ないが、増発は困難。

○地域公共交通再構築調査事業の主な内容

- ・公共交通の利用実態意向調査・列車バス共通時刻表配布
- ・観光による利用促進の取組み(一日散歩きつぷ路線バス連携事業、カードラリー事業、利用者意向調査)
- ・モーダルミックスによる鉄道利用促進事業

○JR日高線「JR北海道の維持困難線区に関する東胆振首長懇談会」開催状況

- 5月8日 令和5年度第1回首長懇談会(オンライン)を開催
 - ・主な協議事項:作業部会の設置、構成員(案)について
- 1月15～18日 令和5年度第2回首長懇談会(書面会議)を開催
 - ・主な協議事項:JR日高線調査・実証事業実施報告について
- 1月22～24日 令和5年度第3回首長懇談会(書面会議)を開催
 - ・主な協議事項:地域公共交通確保維持改善事業(地域公共交通再構築調査事業)に関する事業評価について(JR調査・実証事業)

JR北海道日高線の概要



●事業の結果概要

公共交通利用実態調査（地域住民アンケート・令和5年8月～9月実施）

■調査内容：JR日高線線沿線居住者800人対象調査（18歳以上高校生を除く無作為抽出）・回答172人（22%）

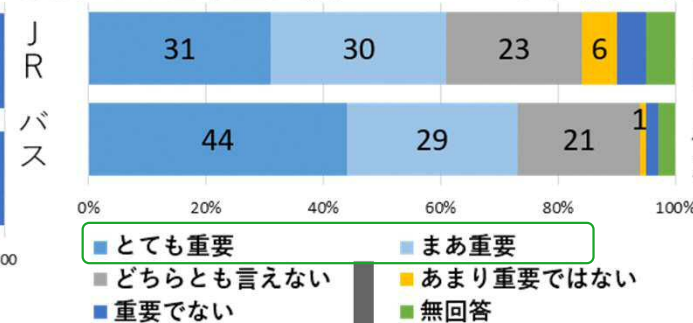
①利用頻度：JR・バス

（単位：%）



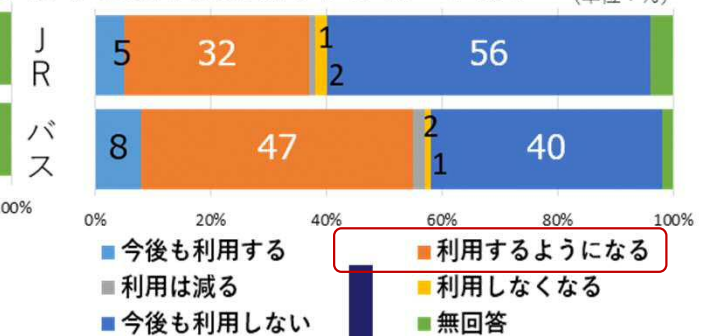
②公共交通の重要度：JR・バス

（単位：%）



③今後の利用意向：JR・バス

（単位：%）



日常的な利用（週2回以上）が、JRが1.2%と他線区と比較しても極めて低く、車移動が主体で約9割が全く使わないと回答している。

JRを利用しない理由(157件中)

- ・車の方が自由に動ける127件(81%)
- ・乗る習慣が無い45件(29%)

バスを利用しない理由(149件中)

- ・車の方が自由に動ける118件(79%)
- ・乗る習慣が無い47件(32%)

実際の利用者は極めて少ないが、公共交通としてJR・バスともにとても重要とまあ重要を合算すと6割を超える。

JRが重要な理由(105件中)

- ・通学に必要な72件(69%)
- ・高齢者などのため66件(63%)

バスが重要な理由(126件中)

- ・高齢者などのため86件(68%)
- ・通院に必要な76件(60%)

今後の利用意向はJR32%、バスで47%が利用するようになると回答。

JRの利用意向

- ・全体の37%が今後も利用する、利用するようになると回答。

バスの利用意向

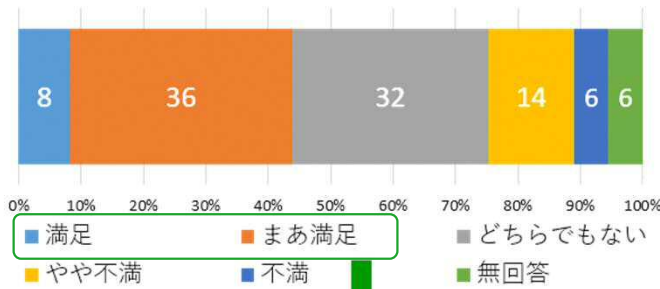
- ・全体の55%が今後も利用する、利用するようになると回答。

●事業の結果概要

公共交通利用実態調査(高校生対象)

■調査内容：日高線（苫小牧～鷗川間）在所の高校・高専等(10校)を対象として調査（令和5年9月）
 配布数300通 回答数73通 回収率24.3%（R4通学調査通学生209人を基礎とした場合35%）
 沿線市町（苫小牧市、厚真町、むかわ町）全体には日高町、平取町等からの通学生を含む

①JRの利用満足度（単位：％）



②JRで通学する理由（複数回答/単位：件）



③通学移動時間（単位：分）



全体では、満足（満足+まあ満足）割合が44%、不満（不満+やや不満）は19%となっており、総体的に満足が上回っている。

項目別満足度（満足と不満の差）

- ・運賃（+評価） + 5.5%
- ・車内サービス（+評価） + 20.6%
- ・運行本数（-評価） - 38.4%
- ・他交通と接続（-評価） - 4.1%

JRで通学する理由は、自宅から駅までが近いが最多となっているが、駅から学校が近い、運行時間が良いが並び、次いで運賃・定期代が安いと選択されている。
バスではなくJRを利用する理由
 バスでも通学可能な生徒を対象として、バスではなくJRを利用する理由の問いには、44%が時間が適している。34%が定期代が安いからと回答。

通学時間合計は平均で65分となっており、学校最寄り駅から学校までは、徒歩が59%で最も多いことがわかった。

自宅⇄駅の交通手段(複数回答)

- ・自転車 34%
 - ・徒歩 32%
 - ・家族の送迎 30%
- ※厚真町居住者は全員が家族の送迎で自宅⇄駅を移動

●事業の結果概要

観光利用でのバスとの連携

■事業概要

日高線と室蘭線を対象に、7月29日～9月30日の間、JRで土日祝に発売するエリア周遊きっぷ（一日散歩きっぷ）で、日高線は沿線路線バス(苫小牧・鶴川間)に乗り可能とし、アンケート調査実施。

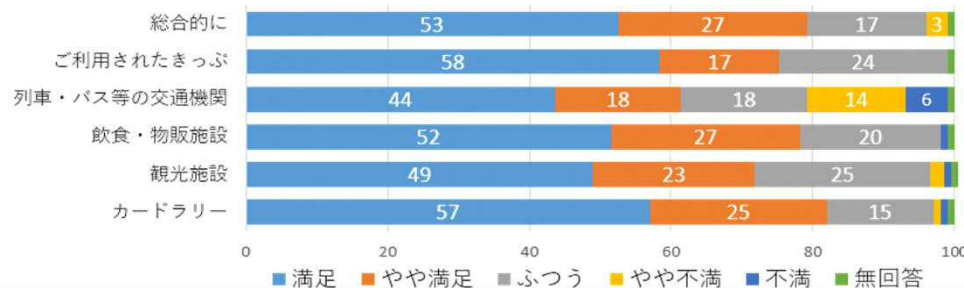
○一日散歩きっぷによる誘客目標及び実績

苫小牧・鶴川間の定期外利用人員25人/日の10%増を見込み21日間の目標を設定。実績は沿線路線バスを1人2回路線バスを利用すると想定し算定。

- ・目標：52人→実績：14人未達（3%増程度）
- ・路線バス乗車数：117人（内日高線27人）

○満足度調査結果（室蘭線・日高線共通）

- ・アンケート数：あびら63枚、むかわ38枚



JR定期券でバス乗車可能とする取組み

■事業概要

JR日高線の定期券所持者を対象に7月29日～9月30日の間、並行する路線バス（苫小牧・鶴川間）に無料で乗車可能とする利便性向上の取組と合わせWEBアンケート調査実施

○路線バス利用目標と実績

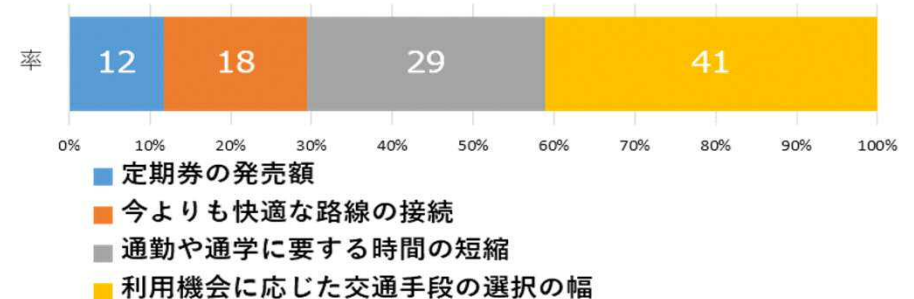
定期券利用者187人の8%が平日バス利用への移行を見込み43日間で目標を設定

- ・目標602人→実績176人未達（9月は3%利用）
（実績：7月3人、8月67人、9月106人）

※高校通学生への周知が夏休み明けになった。

○WEBアンケート結果：19件（室蘭線・日高線共通）

利便性を向上させる仕組みづくりで重要と考えること



●事業のまとめ

- 日高線を日常的に利用される割合が、1.2%と極めて少なく、今後の利用意向も全体で37%となっている。
- バス連携事業からは、JRとバスの接続改善や乗車機会の向上やモーダルミックスを望む意見もあった。
- 上記を踏まえると、今後の利用意向を持つ方のみならず、需要を掘り起こし実際の利用に結びつけるための効果的且つ持続可能な施策の検討や交通機関相互間の調整の必要性が確認出来た。

●事業の今後の改善点(特記事項含む)

- 公共交通の利用実態意向調査・列車バス共通時刻表配布
 - ・引き続き沿線住民の生活の足を確保していくため、マイルール意識の醸成を図る取組や利用促進に向けた取組を推進していく。
- 観光による利用促進の取組み
 - ・札幌圏から近距離にある沿線の優位性を活かし、沿線観光素材や地域施設、イベント等との連携による誘客施策を検討していく。
- モーダルミックスによる鉄道利用促進事業
 - ・公共交通全体でフリークエンシーを向上させ、通勤・通学の利便性を高めていくための取組について、交通事業者等と検討を進める。

●事業実施の適切性

事業が適切に実施された。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄